

部局名

農学部 植物生産環境科学科

担当:霧村 雅昭

テーマ

新しい農業のかたちをデザインする



貯蔵や輸送の技術が発達した現代の日本では、輸入への依存度は高く、食料自給率の低下や農業就業人口の減少が問題になっています。

現状のままでは、もし食料輸入先の不作などのトラブルで輸入量が激減してしまうと、国内の食料が不足・高騰するなど、大きな混乱が予想されます。そのため、食料自給率の向上は国家安全保障の観点からも重要で、農業の活性化を目的とした新しい農業のかたちが必要とされています。



詳細内容はQRコードから確認できます

のうがく図鑑: <https://www.miyazaki-u.ac.jp/agr/books/book-agrenv/post-44.html>



植物工場は蛍光灯やLEDなどの人工光源、気温や湿度を制御するヒートポンプなどの空調設備を活用した、野菜や果物を安全・安心・安定的に生産できる工場的な農業システムです。



営農型発電（ソーラーシェアリング）システムは、農地の上空に設置した太陽光発電設備で発電し、地上では農作物を生産するハイブリッドな農業システムです。



資源循環型農業システムは、焼酎粕や家畜の排泄物などの未利用資源からエネルギーやミネラルを回収して食料生産に活用する農業システムです。